



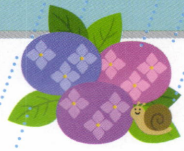
院長
真崎 雅和

Dr.米谷&真崎のレール講座

患話休題

かんわきゅうだい

39



喉頭癌

ミュージシャンのTさんが、喉頭癌のため声を失ったというニュースは記憶に新しいところで、喉頭癌は男性に多く、高齢発症が多いため、Tさんのように若い年齢での発症は珍しいのですが、それにしても魅力的な歌声を聞けなくなったのは本当に残念なことです。

ある統計によると、喉頭癌は人口10万人あたり男性で3~4人、女性で0~2人の罹患率があり、これは年々減少傾向にあります。減少の原因は喫煙率の低下と強い関わりがあり、タバコが喉頭癌の誘発因子であることの有力な証拠でもあります。最近の研究では、タバコの煙に含まれている有害物質を分解できるかどうかの、遺伝子による関与が報告されています。同様にアルコール摂取による影響も証明されており、摂取量の多い人は、咽喉、喉頭、食道癌の危険性が高まること分かっています。さらに、子宮頸癌の原因とされるHPV(ヒトパピローマウイルス)も嗜好の変化により、口腔、咽頭の癌発症に関わっているという報告もあります。

喉頭は口腔と気管の間にあるもので、声を出す声帯を含んでいます。喉頭癌の多くは声帯に発生するため、初期症状として声のかすれが見られます。声の出過ぎや、風邪の後のガラガラ声とは少し異なるといわれていて、声の質をコンピューターで判別し癌かどうかを判定するという方法もありましたが耳鼻咽喉科

ではファイバースコープでのぞけば容易に診断がつけます。まれに声帯の上下にできることもありませんが、これらは進行して初めて声がかすれるため発見が遅れる場合がほとんどで、耳鼻咽喉科医も声帯の下にできたものは特に見逃す確率も高くなります。

喉頭癌は声のかすれとして初期に見つかるものが多いので、従来生命予後のよい癌です。発見・治療してから5年間に生存している確率は80%を超え、すべての癌の中で最も予後がいいとされています。ほんの数センチの声帯にできる癌ですので、初期の数ミリの単独の癌であれば、レーザーで焼き切ることができ、もう少し進みます。なぜなら手術して取ってしまったらほぼ確実に生命は保たれますが、声を失うことになるとからです。多くの場合は放射線療法が選択されますが、その後完全に治り切らなかつたり、再発した場合には、やむなく喉頭摘出を行うこととなります。

声を失った場合は人工喉頭(バイプレーター)や食道発声(ゲップをして咽頭振動)・気管と咽頭に通気孔をつくり咽頭振動させる方法などがあります。いずれにしても歌うことは困難です。



診察時間が近づいたことをお知らせする

メールサービス

約30分前

ご利用ください。
ご希望の方はメルアドを受付へ!!



急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321 秋田市土崎港中央6-8-3